

正・昭和と時代の流れとともに変わってまいって居ります。男性への浮気の問題、死後の思いやり等勝手な事のみ申し上げ私の講演を終ります。

★合同例会に参加して

本日は国際ロータリー創立69周年記念日である。昨年同様拓銀ビル8階大ホールに於いて在函5クラブ合同例会の開催である。午後6時点鐘、国歌斉唱、ロータリーソングは奉仕の理想(ピアノ 五稜郭R.C. 安田会員御夫人・ソングリーダーは東R.C. 小田会員)・函館R.C. 石塚会長の開会挨拶につづき亀田R.C. 松崎会長よりゲストスピーカー・ビジターの紹介があり、小畑パストガバーのおんどで乾杯。東R.C. 大脇会長の講演者の紹介があり、1時間20分「日本の家庭を考える」と題して大変ユーモアにみちたお話、常日頃少しは考えたこともあったが女性の立場からみた男性感と云うものを手きびしくつかれたが、さすが名高い評論家・美人である上に若さと云うこともありこの日ばかりは男連中たじたじであった。当北クラブ駒井会長は講演者一俵 萌子女史に対する謝辞、出席報告及び閉会挨拶は五稜郭クラブ飯淵会長が行なう。最後は例によって手に手つないでを歌って終ったが、司会は東クラブ加茂、五稜郭クラブ本間両幹事、亀田クラブ石塚幹事は受付で大忙し、当クラブ吉井幹事は各クラブの正副S A Aの皆さんと会場かんたくにあせだくだった…… (関本 宏)

◎出席報告

	会員数	出席人数	欠席人数	他クラブ出席人数	出席率(%)
49. 2. 23	56名	42名	14名		
49. 2. 13	56名	34名	22名	19名	96.43%
在函クラブ	(2/12) 函館東R.C. 98.98%	(2/14) 函館R.C. 96.12%	(2/15) 函館五稜郭R.C. 100%		

★第486回例会欠席者

平野・川筋・俣野・松橋・森(正)・西巻・小笠原・沢村・山内(文)・下郡山・杉本・大江 (敬称略)

次回例会日 3月6日  
プログラム 「総 会」

The Weekly Report of Hakodate North R.C.

事務所  
函館市大手町5-10  
日魯ビル 3階  
☎ (0138) 23-3870



例会場 函館市大手町5-10  
国際ホテル ☎ (0138) 23-8751

例会日 毎週水曜日 12:30-13:30

1974. 3. 6

第488回 例会

1973~1974 第34回

「A Time for Action」今こそ行動のとき  
(William C. Carter R.I. 会長指針)



俣野純夫会員

本日のプログラム  
「年次総会」

第487回例会記録

- ◎司 会 駒井 幸一 会長
- ◎齊 唱 手に手つないで
- ◎ゲ ス ト 広谷 政之君 函館R.C. (日本銀行函館支店長)
- ◎ビジター 札幌 幌内R.C. 松浦 宏允君  
函 館R.C. 遠藤 睦郎君 他10名  
函 館 東R.C. 中沢 竹也君 他2名  
函館五稜郭R.C. 村井 邦夫君  
亀 田R.C. 竹内寿五郎君



## ◎幹事報告

- 1) 先般2月23日R.L. 創立69周年記念日には、在函5クラブ合同例会が開催されましたが盛大に行なわれ有難う御座いました。特に親睦活動委員会の皆さん、北条・戸栗S.A.A.・森秀樹会員にありましては早い時間より準備の方参加いただき本当に有難う御座いました。
- 2) まだ先のことでありますが、御案内の通り4月7日七飯R.C.ホストでフォーラムが開催されますが、当クラブはスポンサークラブでもありますので少なくとも30名は参加いたしたいと思って居ります。どうぞ今より御計画いただきます様お願い致します。
- 3) 理事の皆さんは例会終了後臨時理事会を開催致しますので、しばらくお残りいただきます。

## ◎親睦活動委員会 ★ニコニコボックス報告

吉井幹事 2月23日合同夜間例会が無事に終了しましたとして

## ◎卓 話 最近における日本経済の動向について

日本銀行函館支店長 広谷政之氏 (函館R.C.)

最近における函館を中心とした道南経済の動きをみますと、特徴点は二つあります。その一つは各企業ともおしなべて、高い水準の生産を維持しておりますが、業種によって明暗の差というか、跛行色が漸次できてきていること、今一つは百貨店の売上げや乗用車の売行きにみられる様に消費が落ち着きを示していることであります。では、全国的な動きはどうか。端的に云って弱い指標と強い指標が相交錯し、先の見通しがなかなか見きわめにくいといったことかと思えます。弱い面を挙げてみると第一は卸売物価指数の動き。二月上旬は、総平均では前回比(+)1.7%とかなりの上昇ながら久方振り、仮需の剥落から鉄鋼、繊維など数品目が下落を示している。第二は銀行券の動き。日本銀行の月中平均残高は昨秋頃は前年比26~27%増であったものが一月は23%と増勢がやや鈍化している。第三は企業の手許流動性。金融引締めへの滲透により、企業の手許流動性は漸次低下し、総体としてみれば金詰り感が除々にできてきている。第四は需要減退の業種ができてきていること。設備投資関連の機械や自動車などの部門では需要が鈍化傾向にあります。しかし強い指標も一方には存在する。先ず生産であるが、鉱工事生産指数は昨年12月には(-)2%であったが、一月には逆に1.2%と前月に比し生産は伸びている。石油の入荷が存外順調で価格はもとかくとして量の点ではそれなりのものを確保しえたこと云うのがその背景であろう。第二は総体の企業の資金繰りは繁忙化しつつあるが業種によってかなりバラツキがあり、収益が良い、売上げがよく伸びる業種では手許繰りはまだまだゆとりを残していると云われている。第三は物価。昨秋から一月にかけての物価の上げ足は二月に経りやや鈍り、原油の高騰という海外要因を除いて考えれば、物価はやや落ち着きの兆しをみせているとはいえ、総体の物価指数を前年と対比すると上昇率は36%にも及んでおり、物価の先ゆきについては、手放しの楽観はできないように思われる。従って日本銀行としても、現在の引締の政策を堅持して、総需要を抑制し物価を一日も早く安定させて参りたいと期している次第であります。

では次に今後の経済の見通しはどうか。卒直に云って先の見とおしがなかなかつきにくいということが今の実態でありましょう。49年度の経済成長率がどうなるかについて各方面で議論されていることは周知のとおりであり、前提の置き方ではじかれる数値も多少違っているが、いずれにせよ従来の如き高い実質成長率を望むことは困難のように思われる。60年代の日本経済はいわゆる二桁成長を遂げてきたわけであり、その背景にはいろいろな理由が挙げられるが、資源が比較的割高に且つ豊富に輸入できたということも重要な要因である。今回の石油供給削減問題についても、背後には資源ナショナリズムが台頭しているということを見逃してはならない点である。こうした問題が銅・木材・鉄鉱石といった分野にただちに波及すると考えるのはややあわて急ぎの感はあるが世界的に資源の可採年数は除々に低下しており、この面から資源が漸次吉年市場となり日本経済の将来の成長の制約要因となるということを念願においておく必要があります。また、目先きの問題として、先むき、コストアップを製品価格に転嫁するといった行き方もこれまでのように簡単にできるかどうかかなり疑問である。

地元企業としては以上申し述べました事態に対処し、腹八分目の経営というか慎重な経営態度を持していくことがこれから特に肝要なことのようになってまいりました。

## ◎もう一度自然を見直そう 静岡日本平 銚山 亥三郎

自然とは何だろう。この疑問は一見単純にみえて、その実きわめて難解である。この疑問を解明しようとする自然科学は、これまでにならぬ成果をあげたというものの、まだまだその深奥に達するのは遑遠である。しかし私がここで難解であると言っているのは、自然が人間どのかかわりあいにおいてどのような意味をもっているかを理解することである。いやこの理解は、いくつもの積みかさねによって達せられる自然科学的理解と違って、一つの本質直観なのだから、すぐれた知性には、あるいは容易かも知れないが、それによって自然に対する人間の対応の仕方が変わるまでに、この理解が一般に普及することは容易ではないという意味である。

国語学者では私ではあるが、「自然」という言葉が日本語のなかにあわられたのはそんなに古いことではないと思う。近代になってこれにあたる外国語がこのように訳されたのであろう。しかし、この「自然」という訳語がその原語のもつ意味を十分に訳出しているかどうか疑わしい。ちかごろ公害ということに関連して、その保護が強くさげられている自然を、言葉の意味を手がかりにして、もう一度見直すことは、一つの方法でもあり、意義のあることと考える。

さてその原語であるが、たとえば英語のnature 独語のnatur はともに、生むものという意味である。いやもっと詳しくいうならば、それはnatura naturans (生む自然)という作用(イエシス)的意味と、natura naturata (生れた自然)という対象(ノエマ)的意味をもっている。西欧の思想的伝統では、自然はもともとこのように観念されていた。日本でも仏教思想を通じてこのような自然観はあったはずであるがしかし今では、西欧でも日本でも、自然のこの根本的意味が一般に忘れられているようで、世界中どこでも人間の自然に対する対応の仕方は甚だ不遜である。重要なことは、この忘れられた自然の意味、とくにそのノエシス的意味を再確認することである。



「生む自然」を考える場合、もっとも重要なことは、自然のもつ生むはたらきは、無から有を生むのではなくて、再生（ルネッサンス）だということである。古代インドではすでに「生命の輪廻」という観念があった。そして、その再生のサイクルは、短いものは数時間、長いものは数億年と幅ひろくかつ複雑多様である。ともあれ再生という輪廻というも、生れた自然の一つにすぎない人間は、この循環から免れることはできないにも拘らず人間は、自らをこの循環の外におき、自然にチョットを手加えてこれを文化（Kultur）と称し、その外形の絢爛さと効能に酔いしれて、自然に対する敬虔さを失った。徒らに自然の循環をたち切り、数億年もかかって生れた自然の姿を無造作に変えて平気である。言葉だけでも自然を征服するなどということは、このあらわれの最たるものである。

「生む自然」「生きている自然」は、こんな人間の不遜を許しておくはずがない。過去において、自然に対する対応の仕方を誤ったために地上から消えていった幾多の生物のように、人間も大きな自然の循環のなかに埋没してしまう日がないとは言えない。いやその兆候はすでにあらわれ始めている。ローマクラブのように、これを敏感に察知している英知もないではないが、ロータリーももう一度自然を見直して、行動をおこすことは、従来の奉仕活動の枠をはみだすものだろうか。

出席報告  
 小村・成田・岩塚・本間(利)・杉本・川筋・新・平野・成沢・俣野・柴田・沢村・佐々木・佐藤・渡部・石橋 (16名敬称略)

	会員数	出席人数	欠席人数	他クラブ出席人数	出席率(%)
49. 2. 27	56名	40名	16名		
49. 2. 23	56名	44名	12名	10名	96.43%
在函クラブ	函館東R.C. 98.98%		函館R.C. 88.37%		函館五稜郭R.C. 100%

★第487回例会欠席者

小村・成田・岩塚・本間(利)・杉本・川筋・新・平野・成沢・俣野・柴田・沢村・佐々木・佐藤・渡部・石橋 (16名敬称略)

次回例会日 3月13日  
 プログラム 「映 画」

The Weekly Report of Hakodate North R.C.

事務所  
 函館市大手町5-10  
 日魯ビル 3階  
 ☎(0138) 23-3870



例会場 函館市大手町5-10  
 国際ホテル ☎(0138) 23-8751

例会日 毎週水曜日 12:30-13:30

A Time for Action  
 今こそ行動のとき  
 (William C. Carter  
 R.I. 会長指針)

第489回例会

1973~1974 第35号

1974. 3. 13



シャモニーよりモンブランを望む

俣野純夫会員

本日のプログラム  
 「映 画」

第488回例会記録

- ◎司 会 青柳 喜一副会長  
 ◎ビジター 函 館R.C. 勝木 鉄雄君 他13名  
 函 館 東R.C. 吉村 文治君  
 函館五稜郭R.C. 越前 達郎君 他2名  
 ◎齊 唱 奉仕の理想

◎幹事報告

- 1、明年度の国際ロータリー年次大会は来る6月9日から13日までアメリカのミネソタ州ミネアポリス市で開催されます。観光を兼ねた色々なコースの案内がきております。例えば大会参加とゴルフの旅、大会参加とカナダの旅等。申込切は4月14日。
- 2、函館R.C. から台湾訪問団の参加案内がきております。切3月7日。泊6日。会費15万9,000円。希望者は至急申込ましたし。
- 3、先般来御案内の通り、来たる4月7日に行なわれる七飯クラブホストのインターシティゼネラルフォーラムの件。各クラブより提出された議題。四大部門のモデレーター、副モデレーター名が記載され、多数参加される様にとの参加申込書がきております。これは後程会報にのせます。